

第3回創造性教育研究会 in_Shizuoka

・今回は、学びの中心にある「知能」と創りの中心にある「創造性」の違いを出席者で再確認した。

知能: 一般的には「知能」は「頭の良さ」と理解されている。たくさんを知っていたり、多くのことを一度に記憶できたり、与えられた問題を短時間に解決できたり、ものごとを多方面から総合的に判断する力量に優れていたりする人がいたとき、私たちはその人が高い知能をもった人であると理解する傾向が強い。ウェクスラー(Wechsler)は、「知能とは目的的に行動し、合理的に思考し、環境を効果的に処理する総合的、あるいは全体的能力である」という。

知能の高低は、学校の成績と強く関係するとする調査がある。

創造性: トーランス(Torrance)は、創造性を次のように定義している。「創造性は通常、過程あるいは産物、時としてある種のパーソナリティとか環境的な条件として定義されてきた。私は、創造性を問題を嗅ぎ付け、情報のギャップを見つけ出し、アイデアとか仮説を形成し、それらの仮説を検証したり修正したりして、最終的に結果をコミュニケーションする諸過程を指すものと定義したい。」

知能の高い子どもは創造性も高いか？

同一の小学生に「知能検査」と「創造性検査」を実施して、得点間の相関を取ると、低い相関が得られる。大人になっても両テストの相関は低い。

表3.1 知能と創造性の相関係数 (滝沢・城戸,1967)

学年			
2	0.51	0.39	0.47
3	0.21	0.19	0.26
4	0.04	0.1	0.15
5	-0.07	0.14	0.25
6	-0.03	0.06	0.02